

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.239

〔ワーキングプアから抜け出そう〕

☆ネットカフェ難民や日雇い派遣など若者や男性のワーキングプアが大問題になっていますが、従来「働いても貧困」の典型は母子家庭でした。中でも離別母子家庭は死別母子に比べても年収が低だけでなく持ち家率もその3分の1の2割であり、貧困にあえぎ、子どもに高等教育を受けさせることができず、貧困の連鎖を招いていました。

☆かつて「離婚は子どもたちに悪影響を及ぼすか」という調査をしたことがあります（拙著『離婚の子供レポート』や『ママの離婚』ちくま文庫）。「思春期の娘が家出をし、やくざと同棲してしまった」「毎晩、息子が町の不良たちとたむろしている」などなど、子どもを心配する親の相談が絶えなかったからです。また「父親の不在をどうカバーすればいいか」「別れた父親と会わせるべきか」と悩む人も大勢いました。

☆当時、1500人ほどいた全国のハンド・イン・ハンドの会員だけでなく、新聞紙上での呼びかけに応募してくれた人々も含めてアンケートを実施しました。

☆アンケートに答えられる人は、母子家庭の中でも精神的にも経済的にも比較的余裕がある人たちだからか、当時、1割ほどしかなかった父と子の面接を3倍の29%の人が実施していました。

☆暴力が原因で別れたケース等では、子ども自身が父親に会いたがらないこともありましたが、多くのケースで子どもは父親と会いたいと思っていました。そして、面接を自然に定期的に行っているケースの多くは、母親の精神状態も安定していることが判明しました。

☆どの母親も子どもをしっかり育てることに大奮闘していましたが、仕事が安定し、別れた夫が子どもを見捨てていないとい

う状況下のほうが、子どもにゆとりを持って接していたようです。

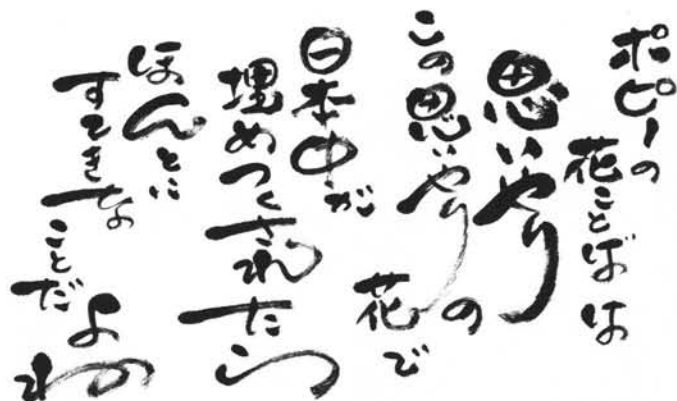
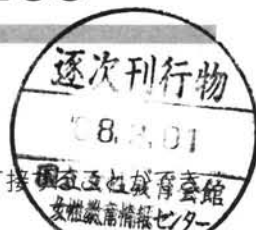
☆それにしてもあれから20年。離婚の母子を取り巻く状況は良くなったのでしょうか。「失われた10年」というバブルがはじけた後の大不況と小泉さんの構造改革で、倒産、リストラ、自殺、非正規社員の増大と、世の中は負のスパイラルに陥り、ようやく薄日がさしてきた現在でも、給与は上がらず、人は使い捨てられています。そうした中で、母子家庭は相変わらず底辺にいます。

☆「働くことへの意欲が乏しい。悔しかったら自助努力で頑張れなさい」——これはサッチャー政権の基本でしたが、我が国でも「勝手に離婚したのだから、貧しくても当然。悔しかったら頑張れ」と母子家庭を冷視してきました。

☆自助努力は確かに大事です。しかし、個人に任せるだけでは悪循環は断ち切れません。スキルを身につけてもらい、今より高い収入が得られるようにする。これが85%は働いている母子家庭の母親への施策ではないでしょうか。

☆その人の適性をカウンセリングし、訓練中は手当を出して生活できるようにする、また働いている人には在宅や休日などにブラッシュアップの訓練ができるようにする。そして何より母子家庭の母を受け入れる企業を増やしたり、子育てと両立できるように在宅就労を増やし、そうした母親への仕事の発注企業を増やすなど、きめ細かなプログラムが必要です。

☆サッチャーの後のブレアは英国の失業者や貧困層を減らすため、52億ポンド(約1兆525億円)をつぎ込んでこうした政策を実施しました。我が国もチマチマした施策ではなく、抜本的な格差是正に取り組みたいものです。(円より子)



画と書：浅野照子

対談

「シングルマザーと結婚して」

～子どもと一緒にスタートする新しい関係の築き方～



ほんの20～30年前、離婚は後ろめたいことのように捉えられていました。離婚女性に世間は冷たく、幼な子を抱えて経済的に逼迫しても実家に戻ることはばかられる中、シングルマザーたちが支えあい、偏見や差別と向き合って生きやすい社会をつくろうと発足したのが、ハンド・イン・ハンドの会でした。

それが、今や「私、バツイチです！」とあっけらかんと公言し、親も「イヤならさっさと別れて実家に戻っていらっしゃい」という時代に。この間の離婚を取り巻く意識と状況の変化には驚かされますが、もっと驚くのが「再婚」事情の変化です。厚労省の統計によると、いま結婚している4組に1組は妻か夫のどちらかが再婚カップル〔2005年／4面の囲み参照〕。再婚女性と初婚男性の組み合わせも増えていて、子連れは嫌がられるどころか「初めから子どもが持てるなんてラッキー」という男性の声も聞かれます。

それでも、まだまだ「子どもがセカンド・ラブや再婚へのブレーキ」という女性も多いはず。今回は、子連れ女性と初婚で結ばれた男性たちに、出会い、子どもとの関係などについて、本音で語っていただきました。足踏みしているあなたの参考になりますように。（藤岡・山崎）



■気になる！ 子連れ再婚のきっかけ

——まず、結婚までの経緯をお聞かせください。

野沢：私と妻は2006年に入籍しました。その1年ほど前に友人家族との旅行で知り合ったんです。その時は、妻は前の夫と当時2歳の娘と3人で来ていました。私はシングルマザーの友人親子の父親役として軽いノリで参加していました。その後、離婚の相談を受けるようになって……当時、私は議員秘書で、職業柄、相談事はよくされるほうですし、信頼されたのかもしれませんが、ちょうど彼女は夫との別れを考えながらも、その一歩が踏み出せない時期だったようです。

大塚：うちは結婚して10年になります。現在、妻と前夫の子ども（長男）は15歳の中学3年生で、私との間に生まれた次男は8歳です。

実は、妻は高校の同級生で、学生時代につきあったことがあったんです。でも私が絵の勉強に専念したので、その間に彼女は別の男性と結婚しました。ところが、久々の同窓会で彼女の事情を友人から聞き、連絡をとった際に、夫と死別したと聞き、それからまた会うようになったんです。長男が2歳のときでした。

野沢：相談に乗るといのはきっかけになりますよね。彼女の話をよくよく聞いていくと、前夫が子育てに非協力的で、酒を飲んで暴れる人だったんです。一番の問題が、娘がぜんぜん実の父親になついていなかったということ。育児放棄というか、子どもが泣いていてもかまわずテレビゲームで遊んでいるよ

うなタイプで、娘は父親恐怖症、男性恐怖症気味になっていました。

ところが、その旅行中、私にすごくなついた。かろうじて抱っこできる父親と祖父以外の男性で、初めて抱っこできたのが私だったんです。そこで妻は驚いて、「この人は娘にとってちょっと違う存在なのかもしれない」と思ったようです。ある意味娘がきっかけを作ったわけですね。それからは、娘が私に会いたいと言うので3人でよく遊びに出かけるようになりました。

大塚：私も子どもとの関係は自然にスタートして、問題なく仲良くなれましたね。デートは子どもと一緒にだったり、二人だけだったり。当時、彼女は実家住まいで、今も続けているインテリア会社の経理の仕事をしていました。

私はというと、それ以前は絵の修業のためにヨーロッパを放浪するような生活をしていたので、誰とであろうと結婚そのものをするという意識がなかった。一時帰国した際に彼女と再会してから日本に落



野沢 けいすけさん

■千代田区議会議員、31歳

家族構成：妻（29歳）、

長女（前夫の子、5歳）、

長男（1歳）

1年間の同棲期間を経て、2006年入籍。自身は初婚。

ち着き、デザインの仕事に就きました。でも目を悪くして、パソコンに向かう仕事には限界を感じたため、美術教師になりました。生活にもめどが立ったので、再会から2年ほどで結婚。長男が5歳を迎える頃でした。

野沢：私は最初から子どもがいるということもあって結婚を意識していましたね。旅行で出会ってから1カ月後には彼女は別居して実家に戻り、その1カ月後にはもう離婚が成立していました。それから、私と結婚を前提に1年間の同棲を始めたんです。もともと私は結婚に際しては、お試し期間として春夏秋冬と一緒に暮らしてみたら、と考えていたものですから。

——結婚する際に、周囲の反応はいかがでしたか？

野沢：近所の人は野沢の息子が、いつの間にか結婚していて、妻子を連れて実家近くに帰ってきたと思っていたようです(笑)。そう間違われるくらい、娘は私になついていたから。また、妻は私の実家のクリーニング屋で母と働き始め、嫁姑の仲も良好でした。

そうして同棲して1年経っても大きな問題もなく、長男の妊娠も重なったので入籍し、披露宴も行いました。一般的に、子連れ再婚はあまり公に祝わないことも多いようですが、うちは娘にも白い可愛いドレスを着せて、ひな壇に3人で並んで盛大にやりました。「二人で結婚するんじゃない、彼女と娘と3人で結婚するんだ」という意味もこめて。そのときに、初めて娘が私の子ではないと知った人も多かったようです。

大塚：うちも、いわゆる障害は特になかったですね。両親や周囲の反対もなく、あっけなく結婚しました(笑)。ただ、妻は前夫の両親との仲がうまくいってなかったの、彼らには再婚したことは伝えてあるのですが、その後のつきあいはありません。

■どうする？ 子どもと実父との関係

——養育費や面接交渉はどのように？

野沢：離婚条件や公正証書など離婚に関する法律的なことは、彼女と相談しながらすべて私が対処しま

した。娘への面接交渉権は認めず、親権も妻にして、実父の公の権利はすべて断ち切りました。養育費は月5万円とし、小・中・高の入学時一時金の取り決めもしました。慰謝料はなしですが、財産分与はきっちり半分に。慰謝料をもらわないことにしたのが、早く別れられたポイントになったようです。

——トラブルは起きませんでしたか？

野沢：一切なかったです。離婚交渉は何回かかかるものと覚悟をしていたのですが、1回であっさりと決着しました。恐らく先方は詳しく書面を読んでいないんじゃないかな。娘の祖父母とも会わせないことにしたのですが、特に文句は出ませんでした。

——子どもにとっては、面接や養育費の存在が実父からの愛情を測るひとつの手段でもありますか……。

野沢：実は仕事柄、シングルマザーの方の相談に乗る機会も多く、その際には「面接交渉権は残してあげて。子どもの父親は別れても父親だから、大人の都合を押しつけちゃよくないよ」とお話します。でも自分のこととなると、正直会わせたくないですね。養育費は今ちゃんと払われ続けています。積み立てて、そこから娘のために使う形にしています。

大塚：うちは死別なので、そういった問題はありませんでした。息子の祖父母とは、前夫が亡くなってから1年ほどは連絡を取っていて、法事に1度連れて行ったようです。でも、前夫が亡くなった際に、彼女のせいだと責められたのが心の傷になっていて、その後は一切会っておらず、最近ではまったく連絡もしていないようです。私はそのあたりはノータッチですね。

■子連れ再婚の子育てのコツ

——結婚後のお子さんとの関係を心配するようなことはなかったですか？

大塚：結婚前も後も、私にも妻にもそういう心配はあまりなかったですね。子どものこととは別に、僕が初婚だったこともあって、「結婚と恋愛は違う」ということは彼女から言われました。放浪するような人生だったので、生活感がなかったみたいで(笑)。夫婦関係をまず第一に、と考えていたんでしょう。

野沢：私たちの場合、彼女は離婚を経験したためか、結婚という形にこだわっていませんでした。結婚は紙切れだけのものだから、お互い分かり合っていればいいという考え方だったんでしょう。僕が強く望んで、結婚しました。

子育てに関しては、私は満点に近いと思います(笑)。妻より私のほうがうるさいくらい。サラリーマンと違って議員は時間裁量が自分でできる仕事なので、やりやすいんですよ。同棲期間からいまだに保育園

大塚 雄史さん

■世田谷区在住、
中学校美術教師、42歳
家族構成：妻（42歳）、
長男（前夫の子、15歳）、
次男（8歳）
1998年入籍。自身は初婚。
妻は、前夫とは死別。



の送り迎えは私ですし、下の子の沐浴なども全部やりました。働く父親の育児参加を議員としても訴えていくには、自分がまずやらないとね。今度、妻に息抜きの時間をプレゼントしようと思って、息子を連れて旅行に行ってきます。娘はママと一緒にいたいと言うので男女で別れて過ごすことにしました(笑)。

大塚：私は子どもとよく遊びはしたけど、家事などはぜんぜん手伝っていないですね…。その辺は本当に申し訳なかった。ただ、子どもに関する話は夫婦の間でよくしていると思いますし、家族で一緒に行動する機会は多かったです。中学の教員という仕事柄、バスケット部の応援に子どもを連れてよく行ったりしていました。そのせいか、長男は小学校からバスケットをやっていて、これからも続けたいようです。次男はもの作りが好きで、科学者になりたいと言っています。

——血のつながりのないことを伝えていますか？

大塚：長男には10歳の時に伝えました。1歳で実父を亡くしているので、記憶がほとんどなく、それまでは私を本当の父親だと思っていました。

野沢：娘はまだ5歳ですからね。出会った時は2歳でしたから、本当の父親と私の記憶がすべて入れ替わっているんです。旅行にも私と妻との3人で行ったと思っています。入籍時は3歳でしたので、苗字が変わったことは覚えています。結婚は1対1ではなく家族とするものとして受け入れているようです。

大塚：うちの子も苗字が変わったのは覚えていて、誰でもいつか苗字は変わるものだと思っていたらしいんです。10歳のころに仲のいい友だちに「お前はいつ苗字が変わるんだ？」と聞いたのをその友達のお母さんが聞き、連絡をくれて知りました。

成長するにつれて、いろいろな場面で再婚家庭特有の事情が明らかになってくるんですね。それをきっかけに、周りに言われて気づくよりは、と妻と二

人で説明しました。息子は「あ、そうなの」という感じで、特に反応はなかったですね。「こいつ、理解できなかったのかな？」と逆に心配になったほどでした(笑)。それ以後、息子がその話題を出したり、あえてこちらからすることもないですね。もう15歳なのでさすがに理解していると思いますが。

野沢：そうだったんですね。うちは、本当のことを私が妻から言うべきか、自然に誰かから聞かされるのがいいのか、あるいは娘が成長して自分で公的な書類を取った時に知るのがいいのか、正直悩んでいます。まだ5歳なので切羽詰ってはいないですが、一番の課題ですね。聞かされるまでの期間に本当の親子愛を育んでいけば何も問題ないよ、と周りの人からは言われますし、私自身もそう思うのですが。

大塚：うちは次男だけがまだ何も知らないんです。8歳で、まだ理解できないと思いますから、もう少し大きくなったら話そうと漠然と思っています。

野沢：でも、血のつながりはあまり関係ないですよ。愛情を注げば注ぐほど似てくるものですし。私と娘と息子は「そっくりだね」とよく言われます。同じものを食べて、同じ生活をしていると似てくるんじゃないでしょうか。議員と秘書も似てくるんですよ、演説の口調とか(笑)。

大塚：そうですね。長男とは、顔は確かに違うんですが話し方などは似てきますし、兄弟も仲がいいです。

——お子さんとの接し方で苦労や悩みなどは？

野沢：娘と息子という男女差でどうしても難しいところはあります。愛情のかけ方は一緒にしているつもりですが、同性としてやはり息子をかまってしまう。一緒に遊ぶにしても、娘はおままごとをしたがるんですが、私は息子と電車遊びとかをするほうがやりやすくて。でもそれで娘が寂しそうにしている、と妻に指摘されました。区別しているつもりはなくても、男女差で対応が変わるところはあるかもしれ

◎ 最近の“再婚”事情 ◎

～ 厚生労働省：平成18年度「婚姻に関する統計」の概況より ～



結婚に関する統計データの内、「再婚」にスポットをあててみると、1975年（昭和50年）から2005年（平成17年）にかけての30年間で、**再婚率は倍近く**に増えています。

「全婚姻件数に占める再婚件数」は13.7%から25.3%に増加。これは、現在結婚中の**4組に1組**は、妻か夫のどちらか、または両方ともが再婚して一緒になったカップルということですね。

これを「初婚」と「再婚」の組み合わせで見ると…

◎初婚女性&再婚男性：5.2%→9.3%

◎再婚女性&初婚男性：3.6%→7.1%

◎再婚女性&再婚男性：3.9%→9.0%

30年前も今も、初婚女性と再婚男性の組み合わせが一番多くはあるのですが、伸び率で見ると**再婚同士**がトップ。**女性の再婚**が大きく増えて結婚総数の16%を占めていますから、**6組に1組**近くは女性の再婚によって誕生したカップルです。

男女共に、離婚した人の3割が**5年以内に再婚**(97-01年)していますが、再婚後の離婚、再々婚というケースも追って欲しいように思いました。

ません。娘が成長して事情を知ったときに、「本当の子どもじゃないからかまってくれなかった」と誤解しないように、気をつけたいと思います。

大塚：似たような悩みは私にもありましたね。兄弟の年齢が離れていたので成長の度合いにも差があって、長男ばかり叱る時期があったんです。「自分の子ではないから」ではなくて、年齢差のせいで。でも当時子どもは（血のつながりについて）知らなかったの、私が勝手に悩んでいただけなのですが。まあ、怒らなければいけない場面では、きちっと怒ろうと意識してやってきたつもりです。最近は2人とも叱る場面が多いですし、実は私も含めて男3人が妻から叱られることが増えています。「どうしてうちの男たちはみんな洗濯物脱ぎっぱなしにするの」って(笑)。しつつけを間違えたと言われます。

悩みといっても、あまり他の家庭と変わらないのではないのでしょうか。ただ長男が思春期に入り、私には口をほとんど聞かなくなった時は、妻に「ここは君から怒ってほしい」と言ったことはありますね。「あの子は僕が本当の父親じゃないといううちの事情をわかっているんだから、その辺は協力してほしい」と。

■こんな家族になりたい！

野沢：息子とキャッチボールするのが夢ですね。将来はやっぱり一緒に酒を飲みたい。娘とはデートしたいな。べたに「お父さんと結婚したい」って言われたい(笑)。思春期になったら難しそうだけど…。そして、もう一人子どもがほしい。でも妻は早く夫婦二人だけになりたいと言っています。最初から子どもと一緒にだったので、恋人同士の期間がなく、二人きりで街を歩いたことが1回しかないんですよ。私は子どもが多いほうがいいと思っているんですけどね(笑)。

大塚：この春、上の子が高校受験で、それがコミュ



ニケーションのいい機会になっているんです。思春期に入りつつあるので、男としても、人生の先輩としても、もっといろいろ話していきたいですね。勉強だけでなく、うだうだする時間も大切だと思いますし、学力だけで進学先を決めてほしくない。自分の好きなことを見つけて、目標を持てる人になるよう、そういうことをちゃんと考えられる子に育ててほしいですね。あとはあの子たちの人生なので、妻と私は見守っていただけです。妻とは自分が肩肘張らずにいられる関係で、幸せだと感じています。

——最後にシングルマザーのみなさんへ言

大塚：シングルマザーの再婚といっても、特別ではないんじゃないでしょうか。

野沢：たまたま一緒になろうと思った相手に子どもがいた。

大塚：ええ、そう。

野沢：シングルマザーの方は、けっこう子連れの再婚を心配していますよね。でも私は**どんどん恋愛したほうがいい**と思います。母子家庭は大変なことも多いでしょうし、それは政治の力でサポートしていかなければならないのですが、まだ行き届いていない。でも、再婚に関して、**子どもの存在は決してマイナス要因じゃない**と思います。「子はかすがい」と言いますし、うちのように子どもがきっかけになることもある。子どもの存在があって、相手の男性とも渡り合えるという側面もありますから、最初からオープンにお付き合いしていけばいいと思います。

——ありがとうございました。

「ハンド・イン・ハンドの会」も後援しています



◎◎◎よういくの日キャンペーンイベント◎◎◎

パパに聞きたいこと

～ 大人世代（親）の責任の全うを養育費問題から考える ～

養育費や離婚後の親子交流は子どもの権利です。「養育費の支払いがされているのは2割」という現状を受けて、養育費の未払い問題を当事者だけの問題ではなく子育てにおける「親としての責任」の問題としてとらえて、大人としての責任を考えていけるように提言していくキャンペーンイベントが今年も開かれます。基調講演とトークショー、ミニライブなど。

●と き：2008年4月18日（金）18時半～20時半

●ところ：東京ウィメンズプラザ大ホール

東京都渋谷区神宮前5-53-67

（JR山手線 渋谷駅 徒歩12分、地下鉄 表参道駅 徒歩7分）

●参加費：中学生以上大人1000円

●主催 & 問い合わせ：「NPO法人Wink」

TEL.04-7142-3232

ハンド
探検隊が
行く!!

一緒にハローワーク体験をしませんか?

…東京ハンドの例会“拡大版”です・3月29日(土)13時、渋谷に集合!!…

男女雇用機会均等法ができて22年。昨年4月に施行された改正法では、女性の採用や昇進を避ける口実にされがちな「間接差別」や、妊娠・出産を理由にした配置転換などの処遇が禁じられ、性別にかかわらず、意欲と能力によって仕事ができるよう、法律はバックアップ体制をしいています。

たしかに、円より子さんが超党派の議員連盟で作った「母子家庭の母の就業の支援に関する特別措置法」の精神を受けて、シングルマザーの雇用・就業支援に積極的に取り組む企業は少しずつ増えています。昨年10月の改正雇用対策法の施行に伴い、募集・採用する時の「年齢制限禁止」が義務化もされました。

でも、ほんとうにシングルマザーの就職窓口は広くなった? 幼い子どもを抱えての職探しをサポートしてくれる仕組みはできた? 若者でさえ就職難なのに、正社員の口は見つかる? 相談窓口で(前に体験したような)イヤな思いは二度としたくない。子育ては終わったけれど、年齢や体力を考えると新しい仕事が見つかるかどうか不安…。一生働きたい…。

そこで、現在仕事を探している方、近い将来仕事

を探す予定の方、あるいは、ほんとうに性別や年齢制限の壁は無くなったのか、求職者の立場にたって仕事を紹介してくれるかをチェックしたい方、興味のある方、一緒にハローワークを見学しませんか?

近年、ハローワーク事情も変化しています。08年春には、全国12カ所に「子育てをしながら就職を希望する方に対してきめ細かな就職支援を行う」と謳った、その名も「マザーズハローワーク」がオープン。担当者制(要予約)でいつも同じ人が対応してくれたり、各相談ブースに赤ちゃん用椅子があったり、チャイルドコーナーがあったりもするそう。東京では、渋谷駅から徒歩5分ほどの場所にあります。

渋谷駅近くには、この他、徒歩10分圏内に通常のハローワーク、35歳以下対象のヤングワークプラザもあり、ハシゴ(?)も可能です。円より子さんも参加予定。

▼参加希望者は、前日までに下記へ連絡を

●東京の会・お世話係/

留守電 & Fax.

携帯メール



弁護士二一〇番



〈回答者〉
弁護士 段林 和江
TEL 〇六・六三六四・三〇一四

Q

結婚10年、小学2年と5歳の息子がいます。4年前から夫が口論になると物を投げつけるようになり、昨年夏に顔を殴られ全治1ヵ月となったのをきっかけに家を出てもらい、別居を始めました。夫が円満調停を申し立てましたが、離婚を口にしたがり、言うことが毎回ころころ変わります。

A 今、夫はDVのセミナーに通っていますが、暴力の原因は私にあると思っています。夫の親もDVで離婚。夫は父親が母親に暴力を振るう姿を見て育ちました。子どもは父親が大好きで、私も夫が更生してくれたら戻ってもよいと思いますが、暴力は治るものでしょうか。夫は経済的に厳しくなったため、今、私と子どもの住んでいるマンション(残ローンあり)を売ると言い出しています。離婚に備えて自立を考えている私は、離婚後の住居として残したいのですが…。

まず、暴力は治るものかとも難しいです。一般論としては、加害者更正プログラムなどがあるように、不可能ではないでしょう。DVの夫でもその人なりに妻子への愛情をもっていることもあり、暴力を繰り返さなければいい夫なのに、と思う妻がいることも事実です。ですが、あなたの夫は、暴力の原因があなたにあると思っており、円満調停の席でも言うことが変わるなど、暴力が悪いという自覚や反省が乏しいように見受けま

す。暴力は絶対にしないという自覚が生まれ、行動も信頼できなければ元に戻るのには危険でしょう。

ローンが残るマンションを離婚後の住居として確保できるかについては、かなり面倒な問題があります。まず、ローンの残額がマンションの時価現在売却する場合の評価額より少ない場合、その差額が財産的価値になります。例えば、時価が2000万円、ローンは1500万円ならば、500万円が財産的価値です。で、ほかに分与する財産がなければ、2分の1ずつの分与として、あなたがマンションを取得して夫に250万円を払い、その上で将来のローン返済もあなたが引き継ぐというのが財産分与の考え方です。金融機関のローン名義を変更できるかどうかは金融機関次第ですので、できなければ事実上夫名義のままでローンを払っていくことになります。

また、逆に残るローンが2000万円、時価が1500万円というように、いわゆるオーバーローン状態の場合、マンションの価値はマイナスです。で、ほかに財産がなければ財産分与はないということになります。さらに、経済的にローンと家賃の二重払いに耐えられなくなっても、マンションを任意に売却することは難しく、最悪の場合競売申立という事態も起こり得ます。

本件ではどちらの場合が分かりませんが、時価、ローンの残額、将来のローンの支払いが可能なかどうかという問題と密接に関連します。

詳細は
次号で
ご報告

アンケートただいま集計中!!

.....ご協力ありがとうございました.....



前号でお願いした、これからのハンドの会の活動に関するアンケートが続々と集まってきました。2月13日現在、93通届いています。お忙しい中ご協力ありがとうございました。みなさんのご要望や叱咤激励など、生の声に触れることができ、大変参考になっています。会員歴の長い方の近況報告を読んでハンドの長い年月を感じたり、それぞれ立場の違う方々からのご意見にハッとさせられたりと、スタッフ一同ついつい時間を忘れて読み込んでしまう毎日です。ここでデータと寄せられたご意見のほんの一部をご紹介します。

●9年先に無職無給が確定していて、かなり不安。老後に不安を抱える離婚経験者のよきサポートをお願いします。(愛知県Nさん：会員歴10年)

●大阪の講座を東京でもやっていただきたいです。会員同士のコミュニケーションだけでなく、(離婚に関する)学習・知識の吸収をできるような講座があると参加しやすいと思います。(千葉県Hさん)

【基本データ】

・回答者数:93人
・平均会員歴:11.8年
最長で27年!! 発足当時のベテランさん。
最短で0年。入会后、間もない方も。

●ハンドで助けられた私が、今度は知人・友人にこの会のよさを知ってもらって元気になってもらいたい。初めての人が読んでもすぐわかるように、以前のようにもって離婚の精神的なつらさの乗り越え方などのアドバイスを載せてほしい。励みになるし、紹介しやすいと思う。(千葉県Yさん：会員歴10年)

●会報誌はできれば続けてほしい。また、子育て終了世帯や子育て世帯、色んな世代の方たちと交流できる場を作っていただけならと思う。どのような形になるにしろ、会が継続していくことを希望します。つらいときに駆け込める場としての存在は大きいと思います。(千葉県Mさん：会員歴2年7ヶ月)

次号(5月1日発行)で集計結果とみなさんのご意見をきちんとご報告したいと思います。ハンドの会は今後どうなっていくのがよいのか、ぜひ一緒に考えてください。アンケート返信は まだまだ受付中!! 忌憚のないご意見お待ちしております。
【スタッフ一同】

ほっと
Cinema
Vol.1

こんにちは! 今号から、映画コーナーがスタート! 「映画なんて、仕事や子育てに追われて観る暇もない」なんてぼやきが聞こえてきそう。はたまた、やっと自分の時間が作れるようになった方もいらっしゃるかも。でもどんな時も、ちょっとした心の空気の入替えに、映画っていいと思いませんか?

「トゥヤーの結婚」

美しいトゥヤーはモンゴルの荒野で、井戸掘り事故で半身不随になった夫と幼な子を抱えて暮らしている。家事に加えて羊の放牧、往復20キロの水運びなど重労働で埋め尽くされる毎日。過酷な現実を前に、ついにトゥヤーは愛する夫と別れ、再婚を決意する。しか



しその条件は元夫と一緒に暮らすことだった!?

自分の力ではどうしようもないこと、女だから不利なこと。悔しいけどそういうことは人生で何度となく訪れる。でもトゥヤーはそんな状況も静かに受け止めながら、道を切り拓いていく。その凜とした強さは、女であり母であるからこそ、生まれたのだろう。トゥヤー=光という名に恥じず、内側から輝きを放つ主人公に、きっと元気をもらえるはず。

ちなみに舞台となったモンゴルの放牧民は、結婚後1カ月ずつ夫と妻の両家族と暮らすそう。お互いの育った環境を見てから二人の生活を作っていくんだとか。なかなかいいアイデア!
(山崎 まや)

●Bunkamura・シネマ (03-3477-9264) にて3月21日まで、梅田ガーデンシネマ(06-6440-5977)にて3月15日から、ほか全国順次公開。2006年中国/96分/監督:ワン・チュアンアン、主演:ユー・ナン/第57回ベルリン国際映画祭グランプリ受賞。

